

タイの子供たちと 心のふれあい

「NPO法人ネットワークハーモニー」

「タイ東北のウドンターニへ初めて行ったとき、生活様式はまったく違うし、長くいられるか、とても不安でした。でも小学校に泊めてもらい、学用品にめぐまれない子どもたちの純粋な目に囲まれているうちに、お手伝いしようと思えました」と、NPO法人ネットワーク「ハーモニー」（代表・浅子直樹）の事務局長田口和江さん（写真）は言います。「ハーモニー」が設立されたのは平成十年、毎年、タイへのスタディーツアーが実施され、タイの子どもたちに楽器・学用品を届け、交流を行っている。さらに、山岳民族カレン族のように、遠隔地に住み、通学が難しい子どもたちのためにドミトリー（寮）の建設も始めている。募金と寄付金など、それに年二十回実施しているフリーマーケットの売り上げなどが活動資金になるといふ。

一トンの学用品を贈る

鍵盤ハーモニカはドレミから習う。紙芝居を見せ、折り紙も一緒に折る。現地の折り紙は高価で手に入りにくいという



10月、千代田公園でのチャリティ・フリーマーケットは、「カンボジアに学校を贈る会」と共催。タイの、きらびやかなシルクの手芸品が好評だった

柏市内の小、中学校に呼びかけて楽器、学用品を集めてもらう。四校から始まって、いまでは三十校に増えた。今年の七月に実施した六人の第八回スタディーツアーで、一トンの学用品などを贈り、帰りにはタイシルクのスカートや雑貨を仕入れ、これをフリーマーケットで販売して資金にしている。スタディーツアーという言い方もいい。観光は光の当たったところしか見てこない。裏面は見られない。タイへ行くと、表裏ともどもをスタディーツアーしてくる。蛍光灯が一本だけ、電気製品などない高床式の家にホームステイもする。ドミトリーに入った子どもたちは野菜などを作って自給自足。金曜に家に帰り、月曜には数十キロを歩いて登校するそうである。「ハーモニー」会員は、男性十人、女性四十人。連絡先は柏市豊四季三三三の二八 田口和江

末広クラブ・逆井漫歩52